

イエス・キリストは、以下によって再臨に備えるようわたしたちを招いておられる。

バビロン（悪）から出ることによって（教義と聖約133：4-5，7，12-14参照）。

当時大管長会の一員であったディーター・F・ウークトドルフ管長は、次のように教えています。



「古代バビロンの町はすっかり荒廃し、その壮麗さは消え去って長い年月が過ぎました。しかし、バビロンの世俗への執着と罪悪は引き続き存在します。今日、不信仰の世にあって信者として生活する責任がわたしたちに課されています。……友人の圧力を受けても平静を保ち、流行や偽預言者に影響されず、不信心な者の嘲笑を気に留めず、悪しき者の誘惑に抵抗し、自身自身の怠惰に打ち勝たなければなりません。」（ディーター・F・ウークトドルフ「恐れることはない。ただ信じなさい」『リアホナ』2015年11月号、77-78）

イスラエルの集合によって（教義と聖約133：4，7-9，37-38参照）。

ラッセル・M・ネルソン大管長は、次のように思い起こさせています。



「だれかを助けるために何かを行うときはいつでも、それが幕のどちら側であろうと、神と聖約を交わして、救いに不可欠なバプテスマと神殿の儀式を行うことに向かって進むのであれば、あなたはイスラエルの集合を助けています。とても簡単なことなのです。」（ラッセル・M・ネルソン「シオンのつわもの」〔ワールドワイド・ユース・ディボーションナル、2018年6月3日〕参照**broadcasts.ChurchofJesusChrist.org**）

悔い改め、イエス・キリストによって聖められることによって（教義と聖約133：5，16，34-35，62参照）。

中央若い女性会長会第一顧問であったキャロル・F・マッコンキー姉妹は次のように説明しています。



「イエス・キリストとその贖罪を信じる信仰によって、わたしたちは、神の御心に添わないものを拒み、心から悔い改めるときに、染みのない清い者になることができます。わたしたちは罪の赦しのために水に沈めるバプテスマを受けます。わたしたちの霊は、心を開いた状態で聖霊を受けるときに聖められます。毎週、わたしたちは聖餐の儀式を受けます。悔い改めの精神で、心から義を望みつつ、進んでキリストの御名を受け、主を覚え、戒めを守ると聖約します。そうすることで、いつも主の御霊を受けることができるのです。」（キャロル・F・マッコンキー「聖なる装い」『リアホナ』2017年5月号、10参照）